

2 生産性向上 -利益の最大化を目指す生産性向上-

(1) 農業の生産性向上対策

① 水田農業

プロジェクト 世界に羽ばたく持続可能な米づくり

目標

- ・「超・プレミアム米」の実現 販売価格1,000円/kg以上
- ・「超・低コスト米」の実現 生産コスト7,000円/60kg未満
- ・輸出用米の作付面積 R5: 321ha → R10: 1,000ha
- ・「青天の霹靂」の単収 R4: 522kg/10a → R8: 540kg/10a
- ・玄米タンパク質含有率6.0%以下の割合 R4: 79.3% → R8: 90%

挑戦する内容

- ・「超・プレミアム米」「超・低コスト米」の生産・販売
- ・輸出を見据えた品種開発と栽培実証
- ・衛星ナビやデジタル技術等を活用した良食味・高品質生産

関係者の声
=対話

- ・稲作を続けていくため、所得を確保できる米づくりへの取組支援（生産者）
- ・価格競争力の高い米など需要に応じた米を安定供給してほしい（取扱業者）
- ・高品質米の安定生産のための効果的な生産指導体制の構築が必要（農協）

役割分担

- ・生産者 : 実証ほ運営、輸出米の生産拡大
- ・農協・集出荷団体等 : 輸出の取組拡大、情報提供、現地指導
- ・産技センター : プレミアム・低コスト栽培に対する助言、多収品種開発
衛星ナビ新機能開発
- ・県 : 研修会開催、現地指導

変革後の姿

- ・多様な市場ニーズに対応可能となり、持続可能な米産地が形成
- ・デジタル技術の活用により精度の高い生産指導が可能

令和7年度計画

挑戦する内容

- 1 「超・プレミアム米」「超・低コスト米」の生産・販売
 - ・「超・プレミアム米」「超・低コスト米」の栽培実証とSNSでの発信（各1か所）
 - ・「超・プレミアム米」の市場評価の検証（現物市場等）
- 2 輸出を見据えた品種開発と栽培実証
 - ・多収有望系統による栽培実証（2か所）と実需者への求評
- 3 衛星ナビやデジタル技術等を活用した良食味・高品質生産
 - ・衛星画像を利用して、水田1枚ごとの生育診断を行う指導ツール
収穫適期マップの実用化（農総研）
 - ・生産指導の徹底（指導者研修の開催：年3回、指導拠点ほの設置、地域の
生産指導PTによる技術普及（「青天の霹靂」3地域、「はれわたり」5地域）
 - ・良食味コンクールの開催（「青天の霹靂」、「はれわたり」、「まっしぐら」）



V溝乾田直播による播種作業



多収有望系統の現地検討会

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・米の生産・販売に関する実務担当者による検討会等を開催し、出された課題等の意見を参考に事業構築（年2回程度）
- ・多収有望系統の方向性について関係機関と意見交換の場を設定（年1回）
- ・指導者向け研修会の際に、農協指導員や拠点ほ担当農家も参加し、意見交換の場を設定（6月、8月、2月）
- ・各地域では、地域の市町村、農協とで組織するプロジェクトチームを編成し、定期的に情報交換（年2回程度）